

テーマ展

資料館のお宝2021特別編 泥炭地と泥炭ストーブ

■4(月)～3/31(水) ※火曜除く

■いしかり砂丘の風資料館(弁天町30・4)

泥炭地と泥炭ストーブ

本格的な冬に入り、暖かい部屋から出たくない、そんな日々がやってきました。北海道は冬にストーブで部屋を暖め、半袖で過ごすのが当たり前。そんなローカル情報をテレビで見かけることもあり。現在、暖房の主流は石油、あるいはガスストーブで、最近では床暖房完備の住宅も多いのではないのでしょうか。

ここでは昔、石狩の人々を暖めていた「泥炭」について触れたいと思います。泥炭(ピート、草炭)とは、水分が多く気温が低いために植物の特にヨシ、スゲ、ミズゴケなどが分解されずに積もつてきたものを言い、排水後もこの泥炭が厚さ20cm以上覆っている土地のことを泥炭地と言います。

北海道は、この泥炭が形成されやすい自然環境のため、全道各地の河川下流域を中心に泥炭地が広く分布しており、道内の泥炭地の総面積は約20万haにも及ぶとされています。石狩もその一つで、花川や樽川、生振、北生振、美登位地区に分布しています。現在は改良が進み、その多くが農地となっていますが、本来、泥炭地は農業には向かず、沈下や崩れやすいことから河川周辺の開発の際にも大きな課題となりました。

一方で、泥炭は可燃物であるため、大正時代には燃料として使われるようになりました。石狩でも泥炭が採掘され、乾燥させた後、燃料

として用いられました。特に生振の泥炭は質が良く、ニッカウキスキー余市工場でも麦芽の香り付けや蒸留の際に活用されました。第2次世界大戦前後には石炭が不足し、泥炭が主な燃料として使用されるようになりましたが、昭和30年代後半には石炭・石油が安価になり、使用されなくなりしました。

現在では「泥炭地」という言葉は耳にしますが、実際に泥炭や泥炭ストーブを見ることはなくなり、昔の暖房器具というと主に石炭ストーブなどが取り上げられます。いしかり砂丘の風資料館では、この「泥炭」ストーブのほか、泥炭採掘に使われたスベード、そのほか冬に関連する資料を4日(月)より展示します。この機会にぜひご覧ください。(坂本恵衣)



泥炭ストーブ



スベード

石狩市学芸員
坂本 恵衣 Kei Sakamoto

専門は文化人類学。地域信仰について調べるとともに、石狩の人々の生活の中で宗教がどのように考えられていたのか、歴史の変遷などを研究する。

■文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館



冬の 新型コロナウイルス 対策

1 感染予防の基本は手洗い・マスク

○帰宅時、トイレの後、食事の前後、マスクを外したとき、はなをかんだときなどは手を洗いましょう。
ハンドクリームで保湿し、手荒れを予防することも大切です。



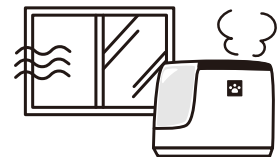
○食事などでマスクを外したときは会話を控えましょう。
マスクの表面にはウイルスがついている可能性があるため、触らないように！

2 感染リスクを高めやすい場所に注意し、対策を徹底しましょう！



3 こまめな換気と湿度(40%以上が目安)を保ちましょう

○寒い時期には窓を開けるのが難しくなりますが、少しでも窓を開けるなど、家の状況に合わせて定期的に換気をしましょう。
○空気が乾燥すると、のどの粘膜が乾燥してウイルスを防御する力が衰えてしまいます。加湿器の利用や、ぬれたタオルをかけるなどして乾燥を防ぎましょう。



4 発熱などの症状が出た場合は？

発熱などの症状	かかりつけ医がいる方	かかりつけの医療機関へ事前に電話相談
	かかりつけ医がない方	北海道新型コロナウイルス感染症健康相談センター ☎0800・222・0018 (24時間対応)
	聴覚に障がいのある方	北海道保健福祉部健康安全局地域保健課 FAX 011・206・0732 ✉ hofuku.chihokansen@pref.hokkaido.lg.jp 相談様式は北海道HP▶ 詳細な情報が必要なため、必ず相談様式を送信してください

